



アクセントリア・
イノベーション・ハブ東京

アクセントリアが支援する お客様事例

KDDI株式会社

端末・料金・ネットワークの同質化が進む中、データアナリティクス活用によるお客様体験価値の向上と、パートナービジネスの推進に向けて、KDDIとアクセントリアは「株式会社ARISE ANALYTICS」を設立。AI技術等を取り入れた次世代型チャットサービスやレコメンドエンジンの開発やデータ分析の支援を通じてKDDIのさまざまなサービスにおけるお客様体験価値向上を目指しています。インターネット広告やIoT等の事業領域では、パートナービジネスを推進するうえで、パートナーが有するデータ分析機能の提供とともに、革新的なデータ活用を提案しています。アクセントリアはKDDIの目指すライフデザイン企業への変革に不可欠なデータの利活用を推進するためのベストパートナーです。

関西電力株式会社

関西電力とアクセントリアは関西電力のデジタル変革に向けて先端アナリティクスなどを活用した合弁会社「株式会社K4Digital」を設立しました。同社は関西電力が保有する電力設備に関する運用ノウハウや蓄積データと、アクセントリアでAIやデータサイエンスを活用してビジネス変革を推進している組織、アクセントリア アプライド・インテリジェンスが保有する豊富な最新デジタル技術の知見を掛け合わせることで、関西電力のデジタル化を支援する役割を担います。アクセントリアは拡張した関西オフィスを中心に、アナリティクスやAIを含む最新のデジタル技術や方法論に関する豊富な知見と経験を活用し、関西電力の既存事業変革のみならず、新規事業の創出や更なる顧客体験の向上を支援します。

損保ジャパン日本興亜株式会社

全国で発生する自動車事故件数は年々減少する一方、運転手の体調異変による事故件数は増加傾向にあり、大きな社会問題となっています。損保ジャパン日本興亜と第一交通産業およびアクセントリアは、データを活用して事故を未然に防ぐ先進的な運行管理を実現するための共同研究を2017年8月にスタート。この研究では、損保ジャパン日本興亜のグランドデザインによる統合プラットフォームを用いて、第一交通が保有するタクシーから収集された運行データを、ディープラーニング等の高度な手法で分析します。この実証実験の成果を踏まえ、今後は安心・安全な社会の実現に向けたIoTソリューションの開発に取り組み、社会全体への普及を目指していく考えです。

塩野義製薬株式会社

アクセントリアはシオノギグループの戦略的パートナーとして、IT戦略の立案やデジタル活用のロードマップ策定を支援し、デジタル、クラウドおよびサイバーセキュリティの領域等からなる“New IT”の知見やノウハウを提供します。また、シオノギデジタルサイエンス社員のアクセントリアへの出向を受け入れる等、積極的な人材交流を通じて、デジタル化の推進に必要な人材の育成とIT部門の機能強化を支援するほか、グループが推進しているビジネスのデジタル化やデータ利活用を主にシステム面から支援します。



関西オフィス

佐賀県

全国的な「エビデンスに基づく政策形成」の流れに先駆けて佐賀県はデータ分析に基づく政策立案導入に取り組み、アクセントゥアはアナリティクス・アドバイザーの役割を担いました。KPI設定から人材育成まで全庁的に支援し、県の重点課題、生命に関する課題にデータサイエンスが答えるべく取り組みました。救急搬送分析では全救急車のiPadから得た15万件以上のデータを分析し、受入困難事例の40%・平均1.3分削減の可能性を示しました。肝炎受療傾向分析では未受療と受療を分ける要因を見極め、全医療機関での取り組みに繋がりました。データサイエンスが行政機関の変革、社会課題の解決に貢献しています。(佐賀県は第1回地方公共団体における統計利活用表彰総務大臣賞を受賞)

JSR株式会社 日本電信電話株式会社

アクセントゥアは、JSR、NTTと連携して次世代型の「スマートコンビナート」実証に取り組んでいます。化学工場にて従来「暗黙知」とされてきた、熟練技能者のプラント運転管理や保全業務の現場映像、音声をセンサーと無線で自動収集し、機械設備からのデータと組み合わせ分析する基盤の構築や、機械学習アルゴリズムに基づいた適切な判断を即時に作業員に提示するソリューションの開発等、化学業界の豊富な業務実績やインダストリアル・インターネット・オブ・シングス (Industrial Internet of Things) 領域のノウハウを持つアクセントゥアと、連携する各社の強みを活かした先進的な取り組みで、化学業界の競争力強化を目指しています。

第一生命保険株式会社

少子高齢化等により大きな転換期を迎えている保険業界にとって、デジタルを活用した顧客体験の刷新は大きな経営課題です。第一生命が2017年3月にリリースしたスマートフォンアプリ「健康第一」は、保険業界のイノベーションとも呼べる革新的なサービスです。アクセントゥアはサービスコンセプトの策定、Accenture Connected Technology Solution (ACTS) を用いたエンタープライズ・アジャイルによる短期間でのアプリ開発、エコシステムの形成によるパートナーリングまで、同社のコパートナーとして包括的なサポートを提供。2017年10月には早くも大幅な機能強化が加えられた「健康第一」からは、顧客理解の深化やコミュニケーションの活性化といった多くのビジネス成果が生み出されています。

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

最先端のデジタル活用が多くの金融機関における最優先の課題となる中、アクセントゥアは三井住友フィナンシャルグループ (SMFG) 全体における業務効率と生産性の向上を目的としたデジタル変革を支援。RPAを活用した人と技術の融合による新たなオペレーションモデルの構築を、戦略の立案から技術検証、未来のロードマップ策定に至るまで一貫してサポートしました。このほか、リスク管理部門、外為業務等におけるRPAを活用したソリューション導入支援も行い、アジャイル開発の手法による短期開発と実装に成功しています。アクセントゥアはこのプロジェクトを契機に、SMFGのさらなる生産性の向上、強靱なコスト体質の実現を支援してまいります。

福岡市

福岡市による健康先進都市戦略「福岡100～人生100年時代の健康社会モデルをつくる100のアクション～」の策定を支援しました。アクセントゥアは、今後、急速な高齢化が進む福岡市の状況を踏まえ、持続可能かつ革新的な保健、医療、福祉システムを築くために、市民それぞれが主体的に関わる仕組みづくりとデジタル技術の活用が不可欠であるとの認識のもと、福岡市の現状および保健・医療・福祉のトレンドを分析し、7項目にわたる戦略的アクションを定義。同戦略に基づき、認知症の先進的ケア技法である「ユマニチュード®」の実証実験を、当該技法の公式トレーニング実施ライセンスを日本で唯一保持するデジタルセンセーション社 (現エクサウィザーズ社) と共に実施しました。

シュナイダーエレクトリック株式会社

シュナイダーエレクトリックは、エネルギーマネジメントとオートメーションのグローバルリーダーです。アクセントゥアの支援により、電力供給のオペレーションを一新する革新的なサービスを開発する「デジタル・サービス・ファクトリー」を導入し、デジタル・サービスの新規開発から立ち上げまでの期間を80%短縮することに成功しました。リアルタイムのデータ・アナリティクスとIoTプラットフォーム上のコネクテッド・テクノロジーを融合させることで、問題や故障の可能性を予測して通知し、設備の稼働能力向上と稼働停止のリスク軽減を実現する等、顧客が将来を予測しながら効果的にオペレーションできるサービスを生み出しています。

その他のお客事例や最新調査レポートは
アクセントゥアのウェブサイトをご覧ください。
<http://www.accenture.com/jp>